

市政に 対する 一般質問

3月定例会の一般質問は3月4日・7日・8日・9日の4日間行われ、11人の議員が市政全般に対する諸問題について質問をしました。紙面の都合上、主なものを掲載しました。なお、詳細については、5月下旬発行予定の会議録（市役所市政情報コーナー、図書館及び地域公民館、市議会ホームページなどで閲覧可能）をご覧ください。

住宅改修資金 制度の充実

大久保 忠
(日本共産党)

問 かねてから住宅改修資金制度（住宅リフォーム制度）の地域経済に与える効果は大きいと認識している。平成21年度は約800万円の予算に対し2億4000万円の工率高。平成22年度は9月に打ち切ったにもかかわらず、予算700万円に対して1億9000万円もの工事高となっており、予算額の28倍もの効果を市内に生み出しているからである。

答 本市はこの制度が地域経済へ大きな役割を果たしていることを認識しているのか。本制度は市内の中小建設

関連事業者のみならず、その波及効果により、地域経済活性化の役割を果たしてきたと認識している。なお本制度も事業目標を達成するために実施しているが、限られた財源の中で運用していることから今年度は予算の範囲内で受付を終了したものである。

問 本制度の補助限度額を10万円から7万円に引き下げるとのことだが、22年度の実績をどのように来年度予算に反映させたのか。

答 平成23年度は、今年度の実績を踏まえ限られた予算において、より多くの市民の方々に制度を利用いただくことにより経済効果も大きくなるものと考えている。なお、平成24年度以降は、今後の経済状況や他の施策との関連など総合的に勘案し検討していきたい。

セカンドブック の必要性

二本柳 妃佐子
(公明党)

問 本市では平成15年10月から図書館事業と検診事業が一体となっており、4カ月検診時に絵本をプレゼントするというブックスタート事業を開始している。現事業に続くセカンドブックについて、先進地の実績や効果を調査研究することなどが、どのように検討されてきたのか。

また、セカンドブックは、子どもたちにとってブックスタートからの読み聞かせから「自分で本を選び、自分で本を読む始まり」となり、大きな教育効果がある。例えば、小学校に入学する新1年生に



ブックスタート事業

自分で選ぶマイブックとして、セカンドブックのプレゼントは読書への興味を高め、読書習慣の定着になると思われる。子どもの読書環境を更に充実させるため取り組みが必要と考えるがどうか。

答 先進市の取り組み状況やその効果、課題などの調査を行ったが、まだ全国的にもこの事業に取り組んでいる自治体は少なく県内では本市以外に事例はない状況であった。しかし、子どもの読書活動を推進するうえで様々な機会でお会いし、本に親しむ環境づくりは大変重要である。セカンドブックプレゼントも子どもたちが本に出会うきっかけとして有意義であることから実現に向けて取り組んでいきたい。

小中学校普通教室 へエアコン設置を

栗原 二郎
(日本共産党)

問 昨年の夏の異常な暑さから、普通教室にエアコンを設置する自治体が増えている。熊谷市でも、新年度予算を待たずに、3月定例会に補

正予算を計上し、工事を平成23年度で行い、翌年の夏から稼動することを市長が明らかにした。良好な学習環境を保証するため、本市においても普通教室にエアコンを設置すべきと考えるがどうか。また、財政的な試算も明らかにしてもらいたい。

答 本市では暑さ対策として平成20年度から扇風機設置事業を進め、本年度をもって小中学校全ての普通教室等に設置が終了したところである。設置に当たっては費用や暑さ適応能力を培う効果などを総合的に考慮したもので当面は、教室に設置された扇風機と各校工夫を凝らし、授業に支障のないよう対応したい。

また、市内小学校の全ての普通教室にエアコンを設置する場合の試算については、現在普通教室が24校で279室となっており、概算の工事費用は約7億円を要する。こうした設置に対する国の補助は工事費に対し3分の1が受けられる。なお、リース方式とした場合、国庫補助の対象外となるため一般的な10年間リースで考えると工事導入と比べ多少金額が上回るものと考えられる。